


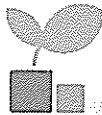




報道発表資料の配付日時 12月1日(火) 14時00分

発表項目 (行事名)	 ほっかいどう未来チャレンジ基金 「みらチャレ通信」Vol. 38の発行について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>北海道の未来を担う若者達の海外挑戦を応援するため、平成28年12月に創設した「ほっかいどう未来チャレンジ基金」。この基金により海外に留学した方々の活動状況などをお伝えする月刊紙「みらチャレ通信」Vol. 38を発行しました。</p> <p>■掲載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア極東研究会で留学成果を発表しました ・「ほっかいどう未来チャレンジ応援募金」が始まります ・「ほっかいどう未来チャレンジ基金」PRポスター&リーフレットを作成しました ・留学生の活動状況 スポーツコース 向井原 洋平さん ・学びの成果を北海道に還元！ ～道内各地で基金生が活躍しています！～ <p>■主な配布先 応援パートナー（企業、団体等）、道内大学等 ※基金ホームページにも掲載しています。</p> <p>■発行時期 毎月下旬</p>		
参考	<p>ほっかいどう未来チャレンジ基金 公式Facebook「みらチャレ」 https://m.facebook.com/mirachalle/ 基金生の海外での活動状況等を随時掲載しています。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 5px;"> <small>公式Facebookページ みらチャレ</small> </div>  </div>		
報道（取材） に当たって のお願い	<p>助成対象者の海外留学の状況を情報発信することにより、道内の若者の海外挑戦に向けた機運醸成と、寄附などオール北海道での応援体制の構築を図っていきたくので、積極的な報道にご協力よろしくお願ひします。</p>		
他のクラブ との関係	<p>同時配付 (場所) 同時レク</p>		
担当 (連絡先)	<p>総合政策部政策局総合教育推進課 工藤 電話：ダイヤルイン 011-206-7380 (内線 23-109)</p>		



北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！11月末時点で、第3期生1名が北海道特派員として引き続き海外で活動中です！

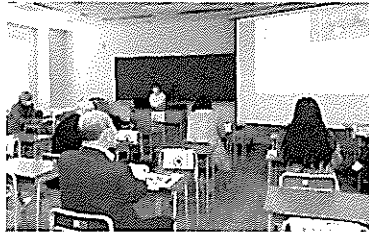
○ロシア極東研究会で留学成果を報告しました

2020年10月31日（土）に農産物の輸出入の可能性を探るため、中央アジアのキルギスに留学したみらチャレ第2期生（学生留学コース）で、現在、栗山町地域おこし協力隊として活動している星野愛花里さんが、NPO法人ロシア極東研究会主催の報告会に出席し、みらチャレによる留学成果について報告を行いました。

星野さんからは、キルギスの農村の様子について地理や産業など基本的な説明の後、留学中に調べたキルギスの現在の農民経営の状況や農業との兼業の中で家畜を群れて飼うキルギス特有の遊牧の家畜飼養システムについて現地での体験も交え、報告がありました。



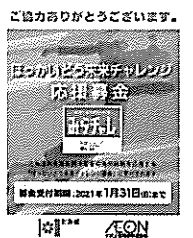
参加者との質疑応答では、「キルギスでは畜業と農業で農村経営が行われているようだが、どちらの収益が大きいのか。」という質問に、「家畜販売などで大きく稼げるのは畜業で、農業はインフラ整備の遅れなどによる自給的な意味合いが強い。定住による農業と草地放牧の畜業の両立はソ連時代に作られ、農地が私有化した現在は共同放牧システムの形成により各戸でその両立をしている状況。元遊牧民だからか畜業が盛り上がりを見せているが、きれいな自然を活かしたハチミツや有機農業、種子販売など新たな農業ビジネスにもつながられそう。」と説明がありました。



○「ほっかいどう未来チャレンジ応援募金」が始まります

イオン北海道株式会社様の御協力をいただき、2020年12月14日（月）から2021年1月31日（日）まで、道内の「イオン」、「イオンスーパーセンター」、「まいばすけっと」、「マックスバリュ」、「ザ・ビック」等の店舗に募金箱を設置し、募った募金を基金に寄附する「ほっかいどう未来チャレンジ応援募金」を実施いただきます。

今回で3回目の取り組みとなり、毎年多くの皆様の御協力をいただいております。誠にありがとうございます。今回も北海道の若者の海外挑戦（留学）を応援するため、皆様の御協力をどうぞよろしくお願いいたします。



○「ほっかいどう未来チャレンジ基金」PRポスター&リーフレットを作成しました

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、留学生の派遣を中止しましたが、来年度の募集に向けて準備を進めるため、「ほっかいどう未来チャレンジ基金」のPRポスターとリーフレットを作成しました。

今後、パートナー企業の皆様や大学等の御協力をいただき、施設や店舗等に掲示・配架する予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

掲示・配架に御協力いただける企業・団体様がおられましたら、裏面記載の道庁政策部政策局総合教育推進課までお知らせください。



○留学生たちの活動状況

スポーツコース

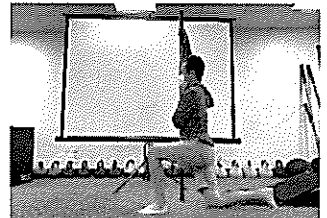
第3期生 向井原 洋平さん 【留学先】アメリカ 【留学期間】2019年7月～2020年10月（1年間 ※2020年6月～8月コロナ禍により一時中断）
アスレティックトレーナーに必要な最新スポーツ医学の知識と技術を学び、道スポーツ界に貢献

コロナ禍で当初の計画通りに進まない期間や一時帰国もありましたが、こちらのスポーツ現場に1シーズンを通して身を置けたことや全米大学体育協会1部校の野球部アスレティックトレーナー(AT)として最大45選手の医療サポートを行えたこと、大学院では投球障害の権威ある教授の下、科学的検証に基づいたスポーツ医学の知識、トレーニングやリハビリ方法の構築に繋がることができました。

有事の際のリーダーシップ、多様なバックグラウンドや性格が異なるAT陣をまとめ上げ、組織を円滑に機能させる組織運営をヘッドトレーナーから多く学びました。

スポーツに携わる者として知識や手技が偏重されがちですがコミュニケーションを疎かにすると何事も上手く進まないことを身をもって理解しています。留学中に会った医療従事者やスポーツ現場で働いている方々は素晴らしいリーダーシップで組織をまとめており、こちらで体感してきたことを今後の活動に存分に活かしたいと思います。

10月は久しぶりに対面での活動も可能となり、多くのスポーツ現場が導入している「Stick Mobility」という団体がちょうどこのタイミングで認定資格講習を解禁したので、2日間の講義と実技講習を受講し、認定資格を授与してもらいました。



○学びの成果を北海道に還元！ ～道内各地で基金生が活躍しています！～

レバンガ北海道ホームゲームのオープニングショーの振付けを担当しました

ダンス技術向上のためアメリカに留学した第1期生(文化芸術コース)の西野留以さんが「ほっかいどう未来チャレンジ応援サポーター」であるレバンガ北海道様のホームゲームのオープニングショーの振付けを担当しました。

2020年10月17日-18日にホーム開幕カードを迎えたレバンガ北海道。そのオープニングショーの振り付けを西野さんが担当され、待ちに待ったホーム開幕戦に花を添えることができました。

西野さんからは、「様々な活動が縮小されたり中止になる中、この瞬間に自分が携われたことに感謝しました。ダンスもとても迫力があり、目の前で見たバスケットにも、とても感動しました。」とコメントがありました。

今後も益々留学で学んだダンス技術を活かして、北海道のダンスシーンを盛り上げてもらいたいですね！



障がい者スポーツが世界を誇りたい

みらチャレ第1期生(スポーツコース)で障がい者スポーツの先進技術や指導・運営を学ぶためアメリカに留学した齊藤雄大さんが、代表を務める一般社団法人HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTSでの活動がテレビ(NHK:ホットニュース北海道)で紹介されました。

齊藤さんは、北海道に障がい者スポーツの拠点を作りたいという思いから、自身で団体(スポーツクラブ)を立ち上げ、障がいの有無に関わらず、高校生までの子どもたちにソフトボールやバスケットボールなどの体験を行ってきました。

そうした中、新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちの活動もできない事態となりましたが、withコロナの時代でも障がいのある子どもたちがスポーツを楽しめる場を提供しようと齊藤さんは考え、新たな活動の場を作ることを決めました。



札幌市内にある倉庫を借り、子どもたちと一緒に施設づくりから行い、いつでも誰もが使える素敵な施設ができあがりました。この施設は、12月1日から利用開始されます。

道内では新型コロナウイルス感染症が再び拡大していますが、こうしたスポーツができる場を守っていく、提供していく齊藤さんの活動を応援していきたいと思えます。

放送の様子はコチラから↓

<https://www.nhk.or.jp/hokkaido/articles/slug-n79b89bd5f6e>

一般社団法人HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS <https://www.h-adaptive-s.com/>

帰国した基金生の活躍機会や、活用できる場の提供などございましたら、ぜひ下記(総合教育推進課)に御連絡ください。

応援パートナーの皆様

(2020年11月現在・敬称略)

武田 孝 有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黑 敬三 坂詰 貴司 佐藤 友昭 鈴木 伸明 船津 秀樹 山田 義勝 匿名希望の個人・企業5者

北海道教育委員会 総合教育推進課
TEL (011) 206-7380 (直通) FAX (011) 206-6613
E-mail mirai_jinzai@pref.hokkaido.lg.jp
ホームページ http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai_jinzai.html

